

## 【第4節】 地域別振興計画

雲仙市は、「国見地域」「瑞穂地域」「吾妻地域」「愛野地域」「千々石地域」「小浜地域」「南串山地域」のそれぞれの特色を持つ7つの旧町地域から成り立っています。旧町においては、それぞれの地域の個性や資源を最大限に活かしたまちづくりを進められてきましたが、各地域ごとの立地条件や自然風土、産業特色、地域資源等、あらゆる分野においてその特色を一層伸ばすとともに、地域を越えた活発な交流と幅広いネットワークを形成することが、雲仙市全体の発展へとつながるものです。

また、現実の市民生活は、それぞれの生活圏である「地域」を基本にして営まれていることから、雲仙市が「食・遊・快」の備わった生活の場として、まちの魅力を一層高めていくためには、各地域の現状を踏まえて、それぞれの地域の特色を十分に生かした個性豊かなまちづくりを進めていくことが重要となります。このため、市民のより身近な地域における主体的なまちづくりの指針として地域別振興計画を定め、市民の身近な地域の整備・保全などを計画的に進めるとともに、地域の個性ある発展を目指します。



# 国見地域振興計画

## 地域の現状と特性

国見地域は、本市の東玄関口にあたり、島原市と隣接しています。南は雲仙岳、北は有明海に面し、普賢岳を起点として緩やかな丘陵となり、緩傾斜地が有明海に向かって扇状に展開し、水田は河川に沿って拓け、畑地は緩傾斜の丘陵に点在しています。

また、長崎県と熊本県を結ぶ海の交通機関として、多比良港～長洲港間を有明フェリーが運行し、島原市や長崎市へ繋がる国道251号と雲仙温泉街を経由し、南島原市へ繋がる国道389号が交わる地域であることから、交通アクセスとしては比較的恵まれた環境にあります。

特性として、国の重要伝統的建造物群保存地区の神代小路地区や全国規模の大会が開催可能な天然芝のサッカー場を備えた国見総合運動公園、更に子どもの遊具施設や遊歩道、サッカー場などが整備され、老若男女を問わず市民並びに県民の憩いの場となっている県立百花台公園もあり、今後とも文化とスポーツを融合させた地域の活性化が期待されます。



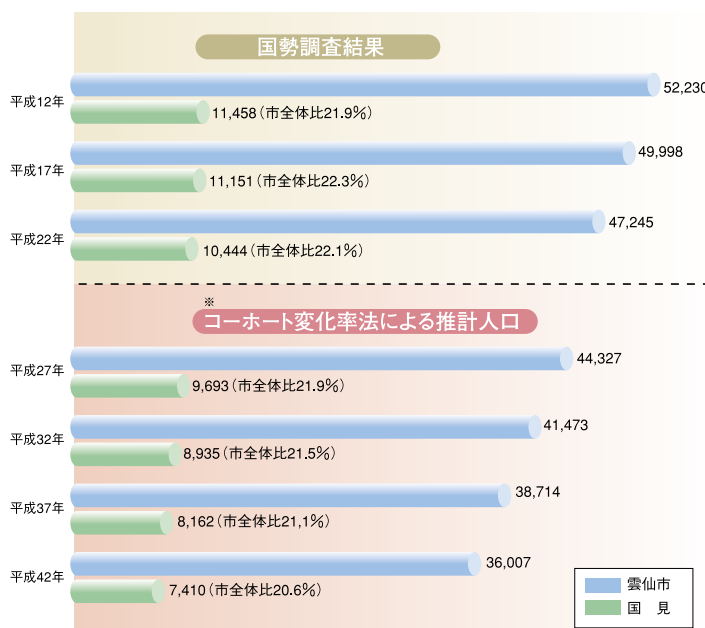
多比良港

## 人口と産業

本地域の人口は、市全体の2割強を占め、市全域の減少率より若干緩やかに減少しています。このような中、8年後の平成32年には9,000人以下になると推計されます。

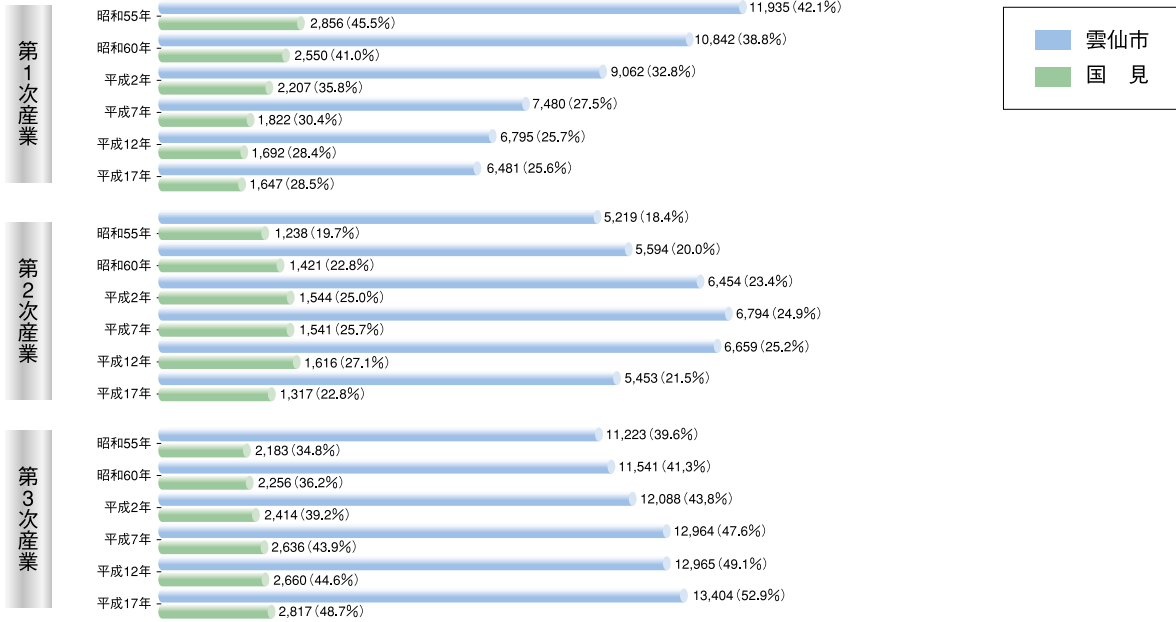
産業では、第1次産業就業者の減少が著しく、昭和55年から平成17年までの25年間で半数近くに減少しています。これは、漁獲量の減少や漁業後継者不足等による廃業等や、農家の離農・廃業の進展によるものです。

商工業については、事業所数や従業者数、製造品出荷額等は減少傾向にあるものの、商業の年間商品販売額は、大型量販店等参入により、平成19年は増加しています。

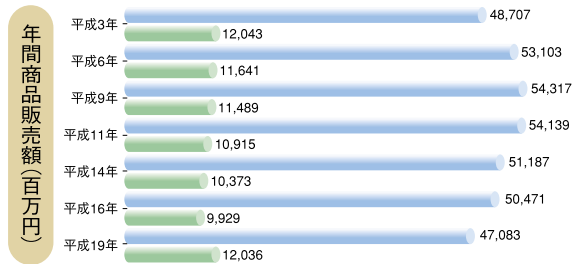
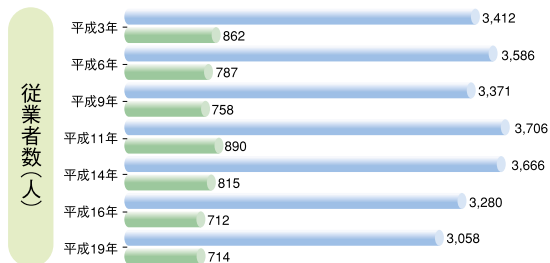
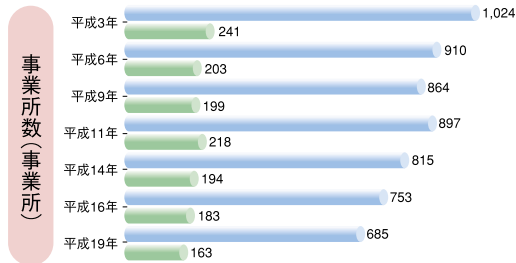


※推定人口は、平成22年の国勢調査結果をもとに推計

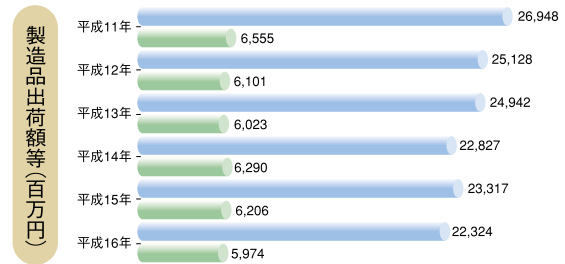
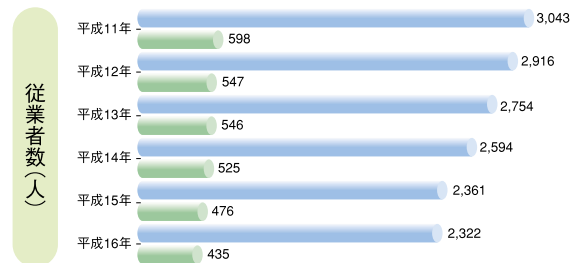
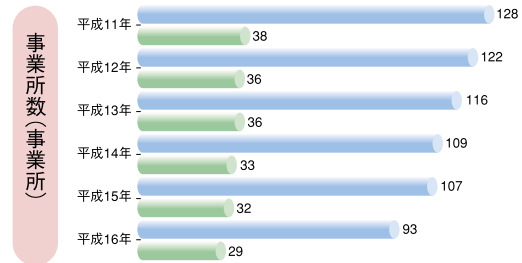
● 国勢調査(産業別)



● 商業統計



● 工業統計



## 主な地域資源

本地域には、平成17年7月に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、国の重要文化財旧鍋島家住宅のある神代小路地区や桜の名所でありミニ鳥居がある淡島公園、桜や紅葉が咲き誇る烏兎の杜、神代長浜海水浴場、県立百花台公園やサッカーで有名な県立国見高等学校もあります。

また、天然芝のサッカー場や人口芝のテニスコート、入浴施設を備えた宿泊研修棟「遊学の館」などで構成される国見総合運動公園もあります。

更に、旧石器時代から続く有史前先人の遺跡として全国的にも有名な百花台遺跡や筏遺跡、近年調査された十園遺跡をはじめ、多くの遺跡が点在し、出土した遺跡などを展示している歴史資料館が整備されています。

水産資源としては、タイラガネ（ワタリガニ）やアサリ貝、水産加工品のかまぼこなどの特産品があり、潮干狩りシーズン中にはアサリ貝掘りに来る行楽客で賑わいます。



神代小路地区

## 現在の主なプロジェクト

本地域には、重要伝統的建造物群保存地区の神代小路地区において、街なみ環境整備事業や伝統的建造物群保存事業などを進めており、また、県立百花台公園整備事業も実施されています。

一方、基幹産業の農業分野では、県営畑地帯総合整備事業（八斗木地区）が進められており、生産体制の充実が図られます。

国道389号のバイパス化を目的に、国道251号多比良港入口交差点から国見高校までの整備として、一般国道389号道路改良工事（多比良バイパス）が進められています。

## 地域のまちづくり課題と将来像

### まちづくりの課題・視点

本地域でも人口の減少・高齢化が進行し、基幹産業の農業では農業従事者の高齢化と後継者不足が大きな課題となっています。農地の基盤整備や農業生産体制の環境整備が図られ、今後は認定農業者を中心に農地の集約化に取り組むとともに、農業生産団体の育成や法人化を推進する必要があります。併せて新規就農者の育成や地産地消による農産品の販路拡大等が急務となっています。

また商工業では、大規模店舗の進出等の影響による商店街の衰退や地元商工業者の廃業も進んでおり、特産品として新たな商品開発や地場産業の育成を図る必要があります。

さらに、埋立計画の約半分が完了した多比良港埋立地について、有効活用を図る必要があります。

### まちづくりの方向性

本地域では、県立百花台公園や国見総合運動公園等のスポーツ施設でのスポーツ大会、「くにみの日」などのイベントの開催や神代小路地区の街なみをはじめとした歴史・文化施設、桜や紅葉が咲き誇る烏兎の杜などを観光資源としても活用し、交流人口の増加を図るとともに、イチゴやメロン、ゴーヤ、花き等の施設園芸や八斗木白ねぎ等の露地野菜、畜産など、基幹産業である農業と、タイラガネやアサリ貝を中心とする漁業の振興を図り、地域の活性化に努めます。

また、この他、県による埋立事業が進められている多比良港埋立地について、地域住民が望む有効活用も急がれます。

観光土産品としては、蒲鉾・菓子等の特産品の販売拡大や新たな特産品の開発等に取り組み、産業の活性化を図ると共に、美しい自然と街なみを活かしながら、活力と魅力に溢れたまちづくりを進めます。

## 瑞穂地域振興計画

### 地域の現状と特性

瑞穂地域は、本市の北東部に位置し、農業が基幹産業で、雲仙岳から有明海に向かって緩やかに傾斜する半扇形に広がった畑作地帯と、西郷デルタに代表される海岸部の水田地帯に分けられます。

中でも中山間地域の畑作地帯では、馬鈴薯などの野菜類やカーネーションなどの花き類、雲仙茶、酪農、肥育牛や養豚などが、また、西郷デルタほか水田地帯では、水稻やイチゴなど施設野菜類の栽培が広く盛んに行われています。

特性として、中山間地には自然美溢れる景勝地として、県の新観光百選にも選定された「岩戸神社」があり、また、グリーンツーリズムを目的とした「みずほの森公園」や農村公園「水車の郷」などもあります。また、有明海に面してみずほ温泉「千年の湯」や宿泊施設「ふれあい会館」を中心とした「みずほすこやかランド」があり、地域の活性化が期待されています。



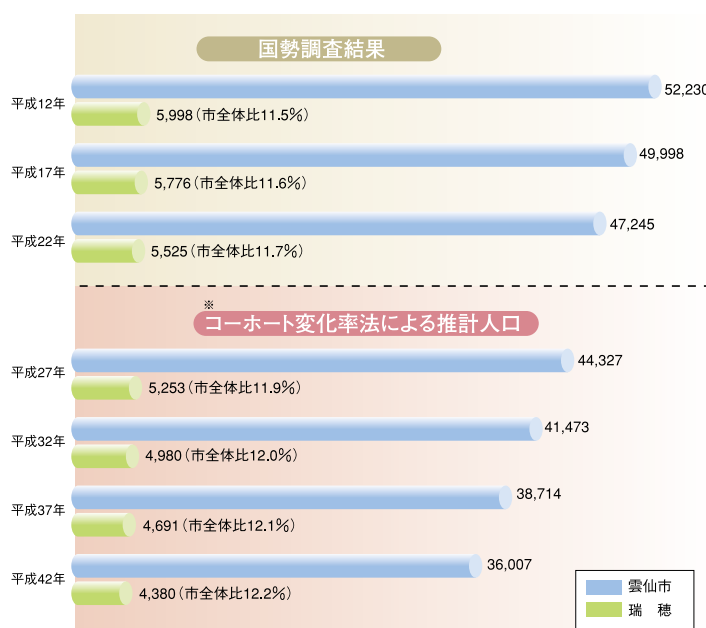
岩戸神社

### 人口と産業

本地域の人口は、市全域の減少率より若干緩やかに減少しています。このような中、8年後の平成32年には5,000人以下になると推計されます。

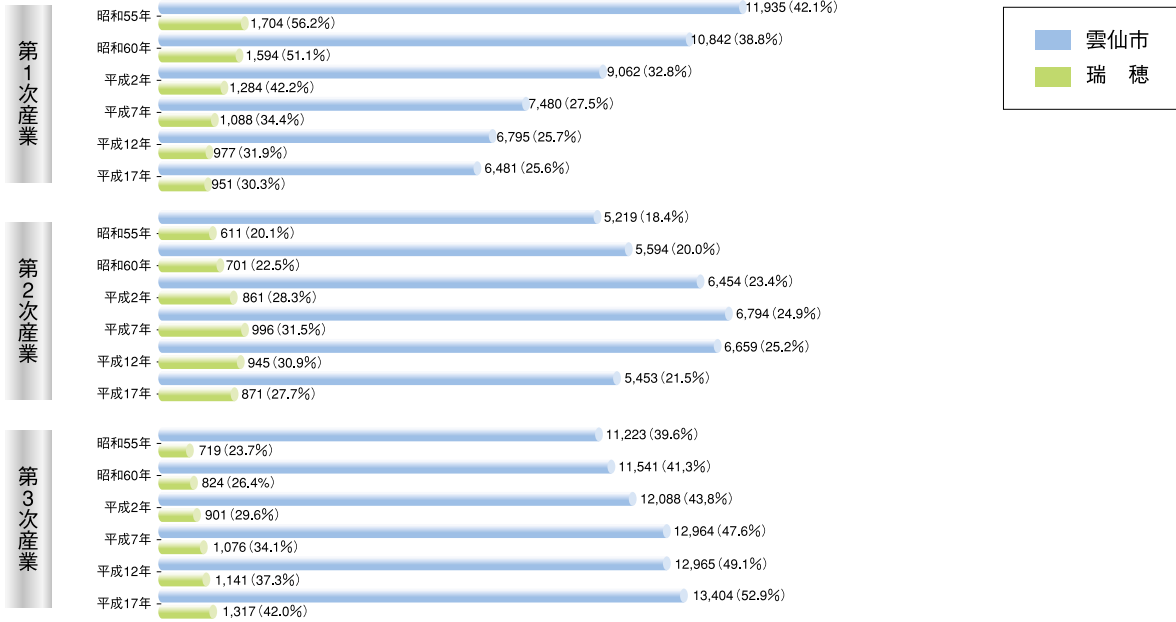
産業では、第1次産業就業者が昭和55年から平成17年までの25年間で約半数に減少していますが、第2次産業就業者は1.4倍、第3次産業就業者は1.8倍と増加しています。これは、交通インフラ整備による都市部への通勤が容易になり、兼業農家が増えたこと、また、後継者不足、高齢化による離農や廃業が影響したものと思われます。

商業では、事業所数・従業者数の減少とともに販売額も減少傾向にあり、工業については、事業所数は減少しているものの、従業者数や製造品出荷額等は微増しています。

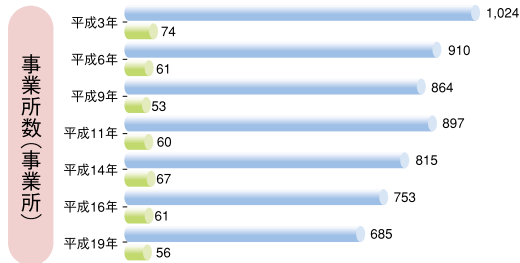


※推定人口は、平成22年の国勢調査結果をもとに推計

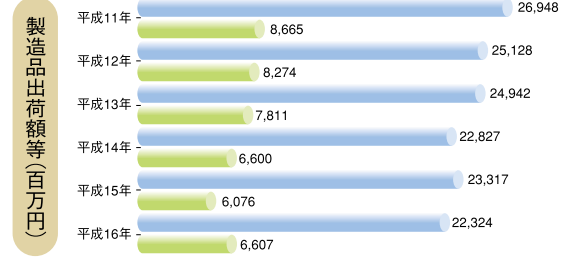
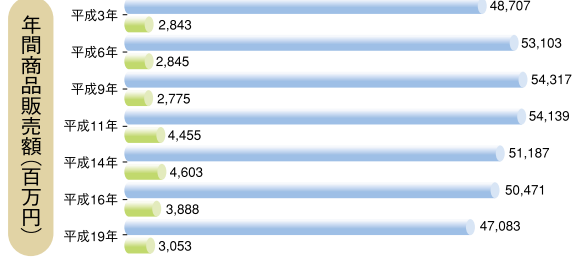
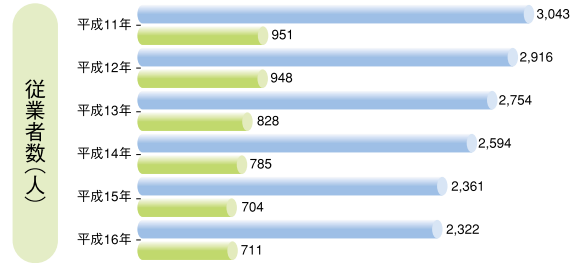
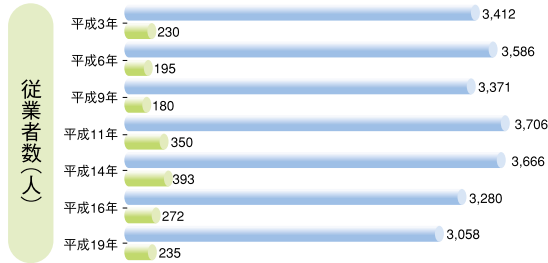
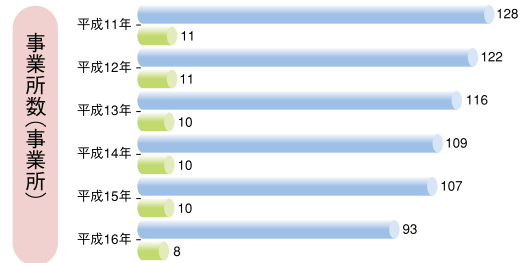
● 国勢調査(産業別)



● 商業統計



● 工業統計



## 主な地域資源

本地域には、「美人の湯」と好評を博しているみずほ温泉「千年の湯」と宿泊施設「ふれあい会館」を中心とした「みずほすこやかランド」があります。中山間部にはグリーンツーリズムを目的とした「キャンプの森」、「クラフトハウス」を中心とした「みずほの森公園」があり、また、岩戸湧水の水を利用した農村公園「水車の郷」や、樹齢数百年の杉木立の参道の奥には自然美溢れる景勝地として県の新観光百選にも選定されパワースポットでもある「岩戸神社」があります。

また、豊富な農水産物の中で、西郷米や、雲仙ブランドとしてカーネーションや雲仙茶、アサリ貝、養殖カキなどがあります。



農業体験(カーネーション)

## 現在の主なプロジェクト

本地域では、自然環境と調和したまちづくりを目指して、環境に対する住民意識の高揚を図り、生活雑排水などの水質浄化対策として、特定環境保全公共下水道事業等を計画的に実施するとともに、市道瑞穂宮ノ地線改良事業等の道路整備も行っています。

## 地域のまちづくり課題と将来像

### まちづくりの課題・視点

本地域でも人口減少・高齢化が進み、産業分野では農業従事者の高齢化と後継者不足、併せて農地の荒廃が大きな課題であります。イベント等を実施して農産物をはじめとした地場産品の育成、PR等に努めていますが、今後更に進行する農業のグローバル化に対応していく必要があります。

商工業では、誘致企業等の規模縮小や撤退など厳しい状況の中、企業への支援及び誘致に努め、雇用対策を図る必要があります。

環境面では、自然環境と調和したまちづくりを進めるため、下水道等への加入促進を図り、総合的な環境整備が必要となります。

### まちづくりの方向性

本地域の主要作物の一つである水稲は、豊かな岩戸湧水に育まれた「西郷米」として広く知れ渡っています。また、カーネーション等の花き栽培も盛んで、イチゴ、雲仙茶等も県内上位の生産地として産地化しています。これらの優良特産品の他、野菜や果樹等の露地栽培、施設園芸、そして畜産を中心とした農業の振興を図ります。水産業では、アサリ貝やカキ養殖の振興を目指します。

また、観光資源として岩戸神社周辺の自然環境を守るとともに、グリーンツーリズムを目的とした「みずほの森公園」や農村公園「水車の郷」、そしてスポーツ合宿地として「みずほすこやかランド」を市の広域観光資源として活用し、交流人口の増加を図り、地域の活性化に努め、水と緑あふれる田園のまちづくりを推進します。

さらに本地域では、自然に優しい、人に優しい総合的な環境整備に取り組み、自然環境と調和したまちづくりを推進します。 — 96 —



# 吾妻地域振興計画

## 地域の現状と特性

吾妻地域は、雲仙岳から有明海に向かって北西に広がる扇状の傾斜地と平坦な台地、そして、古くから開かれた干拓地から形成されています。中山間地域から台地部には畑地が、平坦部及び干拓地には水田が拓け、地域の基幹産業である農業が展開されています。

また、諫早湾干拓により、有明海に面していた海岸部分の殆どが内陸の調整池となったことにより、農地への塩害防止や大雨時の排水機能など防災機能も改善され、更に、雲仙市の北の玄関口として、諫早湾干拓堤防道路（雲仙多良シーライン）からの交流・物流により、地域の活性化が期待されています。



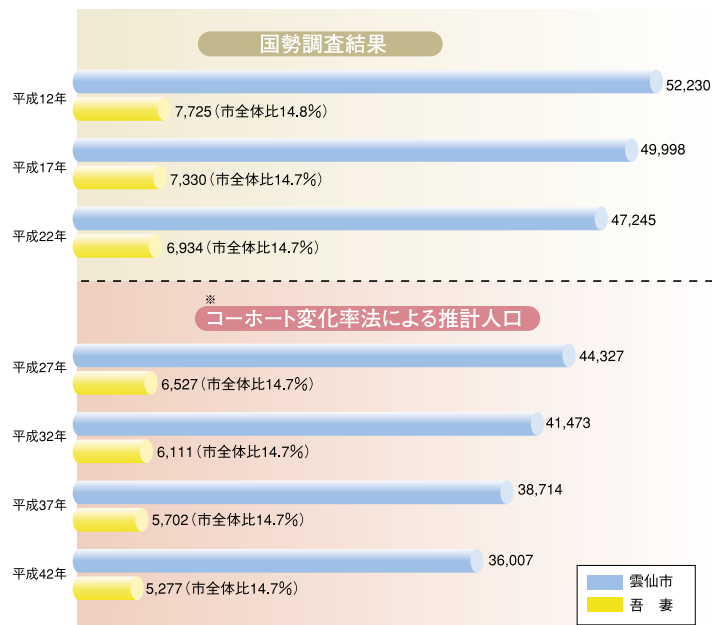
諫早湾干拓堤防道路  
(雲仙多良シーライン)

## 人口と産業

本地域の人口は、市全体の減少率より若干速く減少しており、8年後の平成32年には6,200人以下になると推計されます。

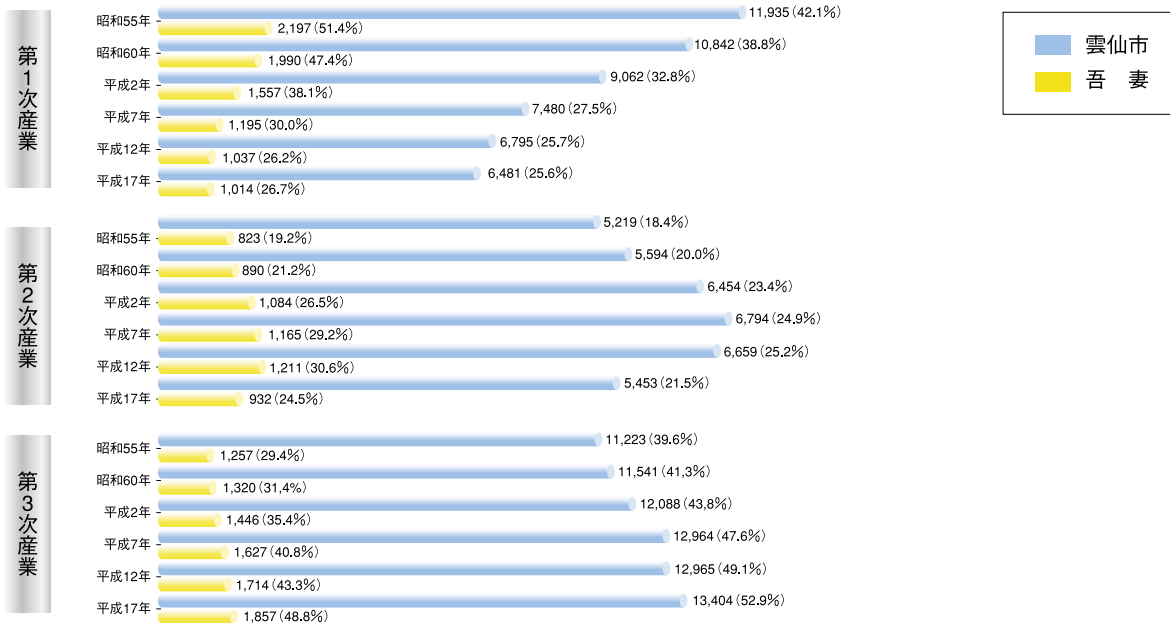
産業では、第1次産業就業者の減少が著しく、昭和55年から平成17年までの25年間で半数以下に減少しています。これは、諫早湾干拓による漁業者の廃業が大きな要因となりますが、農業者の離農・廃業も高い割合で進んでいます。

商工業については、大きな変化はありませんが、事業所数・従業者数・年間商品販売額は徐々に減少傾向にあるものの、製造品出荷額等は徐々に増加傾向にあります。

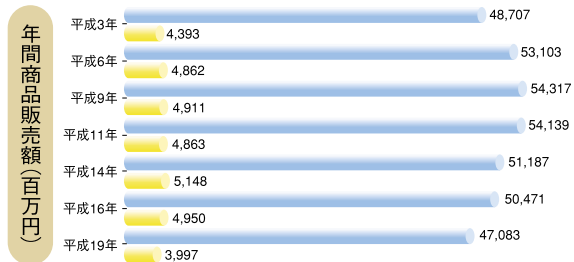
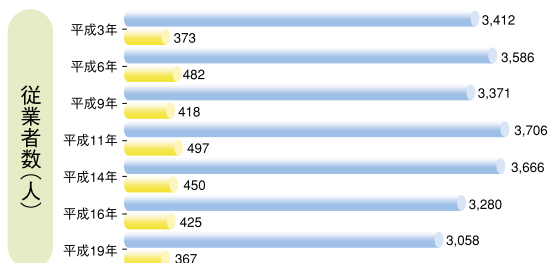
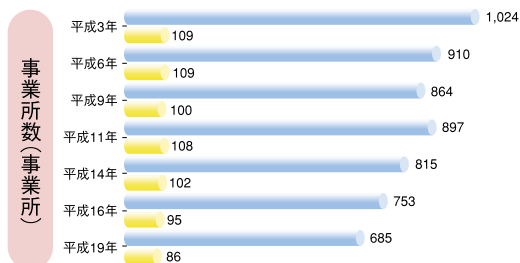


※推定人口は、平成22年の国勢調査結果をもとに推計

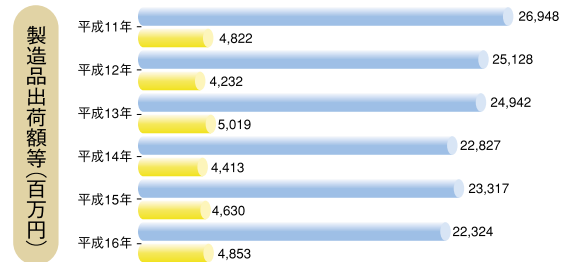
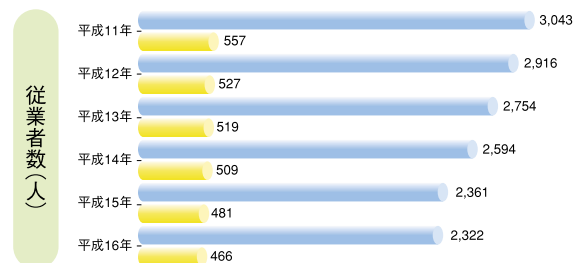
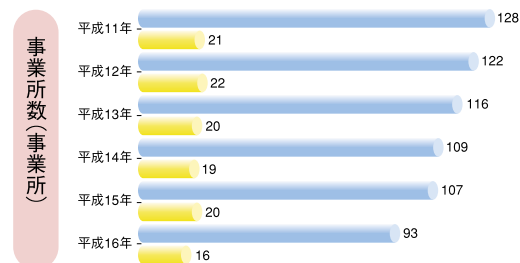
## ● 国勢調査(産業別)



## ● 商業統計



## ● 工業統計



## 主な地域資源

本地域には、牧場地を公園として開放した「牧場の里あづま」や清流を活かした「溪流公園」、中世の城跡を整備した「山田城址公園」、「守山城址公園」の他、島原半島に唯一現存する前方後円墳である「大塚古墳」など、歴史上の貴重な遺跡が数多く点在しています。

また、本地域は、安心・安全の最高峰である有機野菜の産地であるとともに、ブロッコリーや良質の肥育牛などのほか、豊富な農畜産物の中には、「雲仙あかね豚」や食の世界遺産として登録された「雲仙こぶ高菜」もあり、ふるさとの味として定着した「吾妻みそ」などの農産加工品や「かまぼこ(五味八珍)」も有名です。



牧場の里 あづま

## 現在の主なプロジェクト

本地域では、住環境の整備として全域で下水道事業等の整備を進めており、基幹産業の農業分野では畑地帯の大規模な基盤整備事業等が展開され、生産体制の充実が図られます。

また、市道吾妻平木場線道路公園の整備や町下地区の公有水面埋立事業、吾妻愛野バイパス事業も進められております。

## 地域のまちづくり課題と将来像

### まちづくりの課題・視点

本地域でも人口減少・高齢化が著しく、産業分野では農業従事者の高齢化と後継者不足が大きな課題となっています。

地域内の新たな雇用対策も必要で、工業団地等への早期の企業誘致、既存企業の育成や商業の活性化策など、産業面の活性化が必要です。

また、開通した諫早湾干拓堤防道路や、整備が進む国道57号、<sup>\*</sup>地域高規格道路島原道路の開通によっては、交通の利便性が向上することにより、商業施設や企業の進出、住宅地としての開発なども予想されます。

さらに、環境保全対策として、下水道等への加入促進を図る必要があります。

### まちづくりの方向性

本地域では、干拓地をはじめとする広大な農地が広がる農業地帯であり、この豊かな資源を最大限に活かしたまちづくりに取り組みます。基幹産業である農業を中心とする地域内産業の活性化と企業誘致による雇用の増大を図り、環境保全対策としての下水道等への加入促進など住環境の整備を推進します。

また、地域の資源や素材を活用・連携させた観光にも取り組み、交流による活性化と定住促進を図りながら、人と自然にやさしい快適で安心安全なまちづくりを進めます。

# 愛野地域振興計画

## 地域の現状と特性

愛野地域は、本市の中央部に位置し、島原半島の陸の玄関口として、古くから交通の要衝として栄え、東西に緩やかに傾斜する台地状の畑地帯と肥沃な水田地帯に分けられます。外部との交通路として、国道57号及び国道251号が長崎・大村・諫早と連携し、雲仙市を結ぶ動脈として機能しており、島原鉄道が中心部を横断し、島原半島の結節点の役割を果たしています。

自然美豊かな地形は農業に適し、主産業の農業については、水稻、馬鈴薯、畜産、いちご及び花きなどの施設園芸等を中心とした複合経営となっています。

本地域の地理的位置及び交通の利便性、上下水道の整備等により、宅地開発や大型店舗、娯楽施設等の事業所進出が急速に進んでいます。



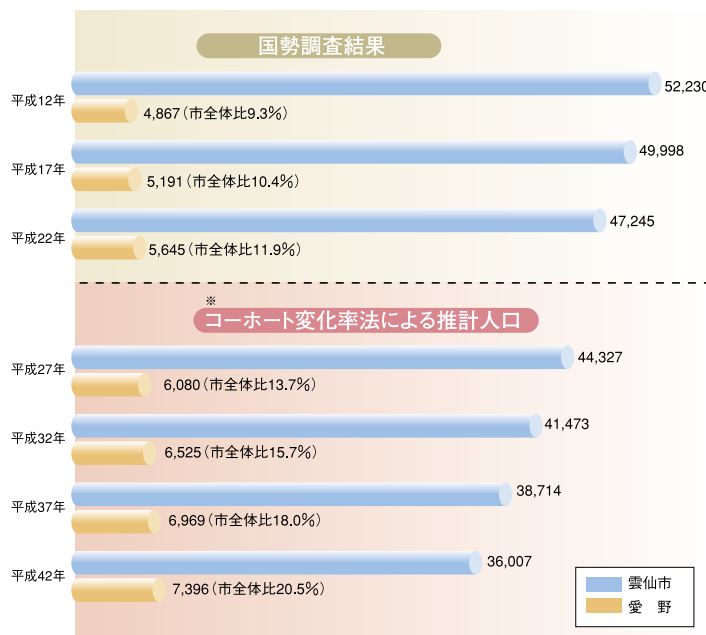
島原半島の陸の玄関口「愛野町」

## 人口と産業

本地域の人口は、市全域が減少傾向の中で、地理的条件に恵まれ8年後の平成32年には約6,500人まで増加すると予想されます。

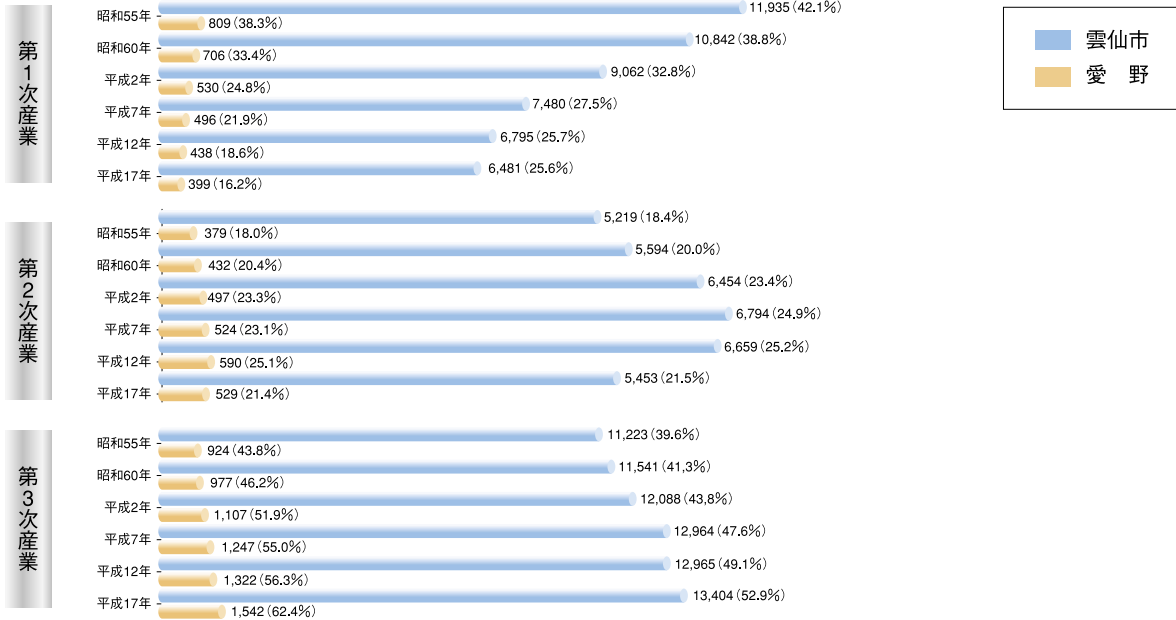
産業では、第1次産業就業者は、昭和55年から平成17年までの25年間で半数以下に減少し、第3次産業就業者は、増加傾向にあります。これは、車社会による交通基盤の整備が進んだことを受け、長崎市、諫早市等の都市部への通勤が容易になったことや、好立地条件により大型店舗等事業所が増加していることも影響しています。

また、商工業については、事業所数は減少傾向にあるものの、従業者数や販売額は横這いとなっています。

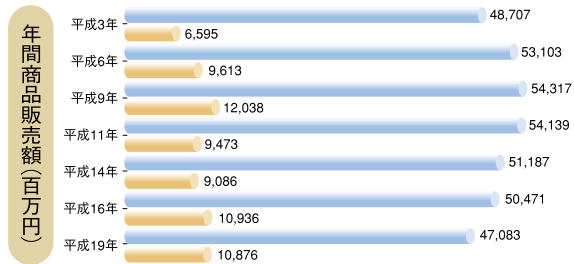
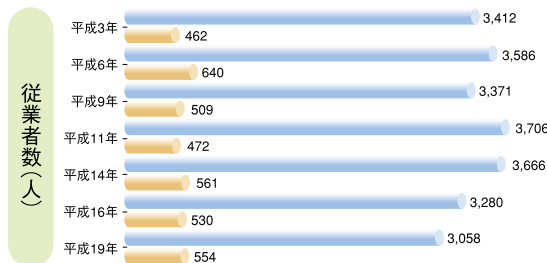
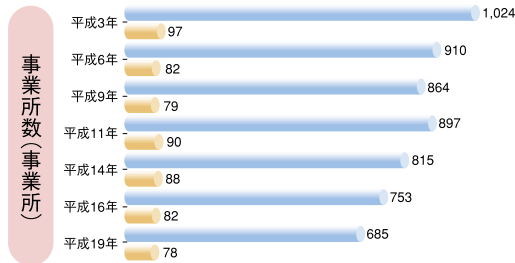


※推定人口は、平成22年の国勢調査結果をもとに推計

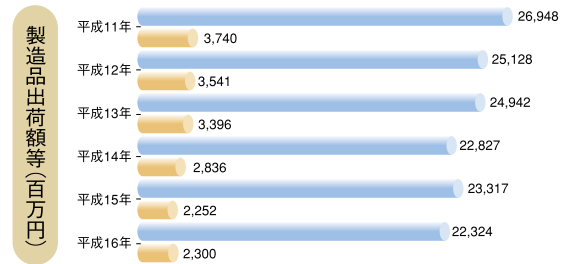
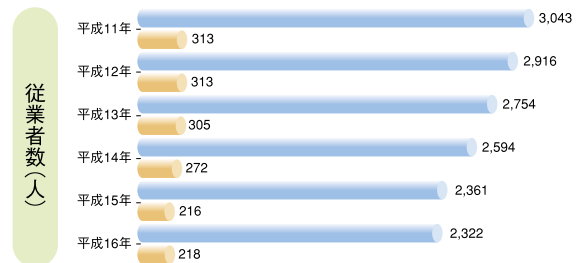
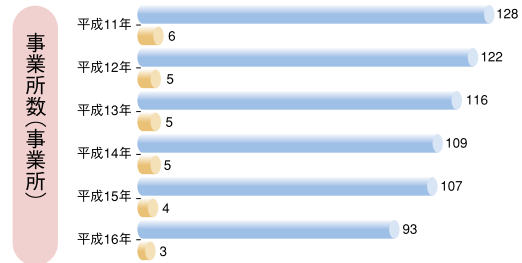
● 国勢調査(産業別)



● 商業統計



● 工業統計



## 主な地域資源

本地域は、長崎百景・県の新観光百選に選ばれた愛野展望台から望む雲仙岳や橘湾の素晴らしい景観が広がる優れた自然環境に恵まれ、自然美豊かな地形をなしており、大地のなりたちや地形、地質をテーマにした自然公園として世界ジオパークに認定された島原半島ジオパークの一部となっています。

文化遺産としては、五世紀後半から六世紀頃に築造され、豪族の長の首を葬ったと伝えられる「首塚」や六世紀の豪族の墓と言われる「一本松古墳」、島原藩と諫早藩を分ける「藩境石塚」、坂本龍馬らが長崎上陸後の旅で宿泊したと言われている「愛津村庄屋跡（深浦家屋敷）」や「野井村庄屋跡（中尾家屋敷）」があります。

馬鈴薯栽培においては、暖地馬鈴薯の生産団地としてその名を馳せ、赤土を利用した独特の色合いと味の良さで全国的に有名なブランドとなった「愛の小町」とともに、同じく雲仙ブランドとして認定された「雲仙スターチス」があります。

また、本地域には日本ロマンチスト協会本部が設置され、ロマンチストの愛の聖地として認定されているほか、恵まれた自然条件を活用した風力発電施設もあります。



愛の小町(ジャガイモ)

## 現在の主なプロジェクト

本地域では、住環境の整備と共に定住人口の増加等が期待され、その基幹道路として国道251号と雲仙グリーンロードを結ぶ縦断線道路の整備や、愛野森山バイパスや吾妻愛野バイパスの早期完成を推進しています。

また、愛野運動公園では、平成26年開催の長崎がんばらんば国体に向け愛野運動公園多目的芝生広場の整備計画を進めており、長崎国体後は市民の憩いの場としての活用が期待できます。

## 地域のまちづくり課題と将来像

### まちづくりの課題・視点

本地域では、農業従事者の高齢化、後継者不足、農業所得の減少等により農業を廃止又は規模縮小する農家が多くなっています。

また、本地域では、島原半島の交通の要衝であるため、交通渋滞の緩和対策と併せて、愛野森山バイパスの早期完成や歩道の整備などが必要となります。それに加え、地域高規格道路島原道路なども計画されており、国道57号を含めて、道路網等交通インフラが整備されることに伴い、住宅用地、商業用地、農地の調和が取れた環境づくりが必須となります。

## まちづくりの方向性

本地域の水田地帯では、水稻が作付けされ、国道57号と251号に囲まれた区域では馬鈴薯団地が広がり、住宅地と農地が混在しているため、担い手農家に農地の集積を図り、農業と融合した魅力ある田園都市型のまちづくりを推進します。

また、本地域は市内で唯一人口増加を示しており、更に人口増加が見込まれ、「雲仙市」の中央地区として市発展の牽引的役割を担う地域として期待されています。

今後、交通及び住宅、商業、公共機関の拠点として、道路・流通・公園・住宅環境などの基盤整備に取り組み、定住人口、更には交流人口の増加を図り、人の集う賑わいのあるまちづくりを進めます。